

# スポーツ文化フォーラム Session 1

渋谷区長

長谷部 健 氏

スポーツとは、『デボルターレ』

by 長谷部 健



# スポーツは文化である

スポーツドクターとして、  
「スポーツは文化である」と  
世の中に伝えたいと思っています。

文化にはスポーツもあり芸術もあり、音楽もある。  
人間の心の豊かさを作る活動すべてが文化なのです。  
スポーツの文化的価値は、  
医療性、芸術性、コミュニケーション性、教育性、  
この4つであることに行き着きます。  
人はこの4つがないと、人間らしく生きていけません。

スポーツの医療性によって**元気**を、  
芸術性によって**感動**を、  
コミュニケーション性によって**仲間**を、  
教育性によって**成長**を。

「スポーツは文化」と言える国にすることが、  
私の志でありミッションの1つでもあります。

## スポーツの魅力

辻 長谷部さんは様々なスポーツをされていらっしゃいますが、区長という立場を超えてスポーツの魅力をどのように感じられていますか？

意味で、子どもたちにもゲーム性のあるスポーツをしてほしいと思っていますし、その中でどういう練習をすればいいのかとか、どういう気分でいればいいのかとか、勝つときのコツみたいなものを会得してほしいと願っています。

辻 長谷部さんは日本のスポーツの方について何か感じられていることはありますか？

長谷部 僕はスポーツを通じて色々なことを学んできましたし、今も学んでいます。例えば、昔はチームスポーツをしていたのですが、そうすると自分の調子が悪くても勝てることがある。勝たせてもらうこともあれば勝たせてあげることもあり、「勝つ」という一つの目的に対しても勝ち方がある。これはスポーツを通して得た大きな学びの一つですね。あとは、どんなスポーツでも個人的に色々な練習をしますけど、経験を重ねるうちにこの空気になつたら負けないなどか、勝負事での自分の勝ちパターンみたいなものが出来てきて、それも色々なスポーツを通



## スポーツは「デポルターレ」

長谷部 スポーツの語源を調べると「デポルターレ」というラテン語で、それは気晴らしをする、発散するというような意味ですよね。だから昔の人は大きな声で歌を歌つてデポルターレとか、良い景色を見てデポルターレとか、色々なデポルターレがあつたと思うんです。僕自身は「気合だ！根性だ！」でスポーツに取り組んできた世代で、スポーツのデポルターレ的な意味合いを分かつてきたのは大人になつてからですね。教育の世界における「教える」という観点では、現場の先生たちが頑張られていると思いますが、日本のスポーツの世界に不足しているのはスポーツビジネスの要素ではないかと思います。

スポーツがマーケットとして成り立つて、そこに多くの人が関わって経済が動くようになると色々な意味で豊かになるとと思うんです。

**辻** そうですね。僕は心に豊かさをもたらすものとして「スポーツは文化である」と言っているのですが、長谷部さんならスポーツの文化性をどのように伝えられますか？

**長谷部** みんなそれぞれのスポーツがあると思うんです。僕は身体を動かす方が好きだから“する”方が多いんですけど、さつき言った“観る”こともあるし、デボルターレに戻るってことかなという気はしますね。

**辻** なるほど。僕は「文化」は人間を豊かにする活動であるという定義をしていて人間ならではの文化性は、スポーツの「医

療性、芸術性、コミュニケーション性、教育性にあると思っているんですけど、これについてはどう思われますか？

**長谷部** スポーツは色々なものに応用が利くということに繋がるのかなと思います。例えば、コミュニケーションやマネジメントなどチームスポーツで出てくる要素は会社で組織を動かすことに繋がりますし、相手に勝つための戦略を練ることもそうです。スポーツで会得するものもあれば、ビジネスで得たものがスポーツの勝負に活かせることだってあると思います。

**辻** “観る”スポーツの普及として根付かせるにはハード面の課題が大きいと思いますか？インフラの問題を考えるとそれを作る段階で携わる人の意識が不足しているのか、メディアの問題

それによる影響が大きいと思っているのですが。

**辻** なぜ今はスポーツがビジネスとして成り立ちにくい状況なのだと思いますか？僕は今の日本のスポーツは体育や部活という枠組みの中で捉えられていて、

なのか、どこがそこをブレイクスルーしていくのか。オリンピックやワールドカップがあると皆さん“観る”スポーツを満喫しますよね。でもそれが終わるとまた元に戻って“する”スポーツだけになるし、観客席には関係者しかいなくなる。そこをブレイクスルーして“観る”スポーツが我々の文化として育まれていくために何かアイデアはありますか？

長谷部 それはスポーツをビジネスとして成り立たせるためにどうするかという問題に繋がつて行くと思いますね。例えばアリーナの問題で言えばヨーロッパのサッカー場やアメリカの野球場、アメフト場に行くとスタジアムの中にホテルがあるとか施設としてもっと魅力があります。試合がないときもそこで楽しめる仕掛けがあつたり、VIPルームがあつてビジネスの商談がそこで行われていたりする。日本のスタジアムにもVIPルームが出来たりしていますけど欧米にはまだ劣ります。都心のど真ん中にスタジアムがあつたり、高速道路の出口がスタジアムに繋がつてているなど、“観る”ということを応援する環境を整えることは日本がもつと改善出来るポイントだと私は思います。

辻 そのように日本でスポーツビジネスを加速させていくカギはどこにあるんでしょうか？

長谷部 僕の行政の立場から言うと、もつと民間とタイアップすべきだと思っています。例えば行政がスポーツ公園を作ろうとする大した公園に出来ない。だけど、例えば渋谷の宮下公園は初期段階からスポーツの専門でビジネスをされているナイキさんの提案を受けて作られてるのですごく良いモノが出来たわけですね。企業がマーケットと捉えてそれを活

性化しようと思ったときに行政のリソースと掛け合わせることでより良いサービスをつくつていくことをどんどんやるべきなんです。僕がメンバーとして関わらせて頂いているスポーツ庁のスポーツ未来開拓会議というところでも行政と企業のタイアップの事例などを話しているので、こうした動きが広がればいいなとは思っています。



## 成熟都市 “ロンドン、パリ、 ニューヨーク、渋谷” を目指して

辻 都市の“成熟性”というのは具体的にはどのような感じですか？

長谷部 “心のバリアフリー”です。今、渋谷区では福祉のことを“超福祉”と掲げて職員の人たちはそれを自分たちなりに理解して今までの概念を越えた福祉のあり方を考えています。先日はある企画に SHIPS や BEAMS がのつてくれて、シヨーウィンドウなどに車いすとかを展示してくれました。そうやって街の景色にしないとダメだと思うんですよ。条例や法律を作つて終わりでなく意識や街の景色、空気が変わらないとダメです。キャンペーン的な考えでもつとそういう輪を大きくしていきたいと思つてゐるんです。

辻 僕が車いすバスケの選手たちとバラ

リンピックに行つたときに驚いたのはボランティアの方が選手の十～二十倍、へたすると百倍近くいらっしゃるんですけど、みんなとにかく元気だということ。それで「みんな元気ですね」って言つたら、「選手たちはプレイ・スポーツをして元気だけど、僕らはボランティア・スポーツをして同じように元気なんだ。観客の人たちはウォッチ・スポーツ（観るスポーツ）をしている。ボランティア・スポーツとウォッチ・スポーツとプレイ・スポーツみんな同じでしょ」と。スポーツに触れることで豊かな人生にしたいよね、元気になりたいよね、みたいな感じで話しているのがすごく印象的だつたんです。ああいう国を目指したいと思いました。

## 東京オリンピック・ パラリンピックへの想い

辻 これから 2020 年に向けて東京オリンピック・パラリンピックの果たす役割、東京の役割、日本の役割、世界へのメッセージについて長谷部さんはどのように考えていますか？

長谷部 僕、それが成熟した都市の条件だと思います。そういう意味でも来るパラリンピックを成功させたいです。区長になつて以来、成熟した国際都市とは何

かということを考えた街づくりをしたいという意味を込めて“ロンドン、パリ、ニューヨーク、渋谷”と言われるようになります。先ほどのパラの話を聞いたとき、ロンドンであれ、パリであれ、ニューヨークであれ同じようなことを感じるんだと思ったんです。それをアジアで初めて東京が特に渋谷がやれたらしいなと思っています。

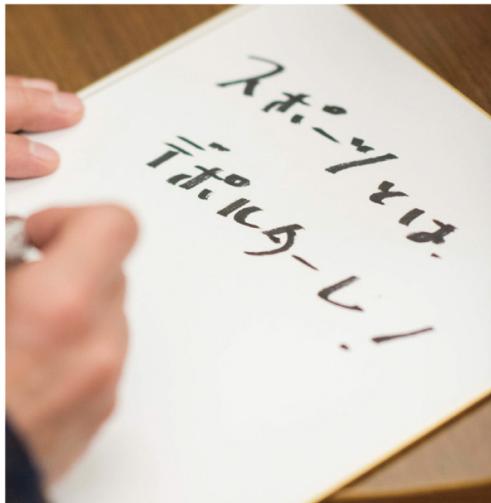
長谷部 みんなの意識が変わるチャンスとしてオリンピックよりもパラリンピックに注目しています。僕の行政の立場か

らすると、福祉の領域を変えるためにもパラリンピアンたちを支援していくことは一つのカギになるのでこのチャンスを逃したくないと強く思っています。アーティスト、北京、ロンドン三つのパラリンピックに出場している選手などの話を聞くこれまでで一番良かつたのはロンドンだと言うんです。例えば目が見えなくても感じじる声援やホスピタリティ、そして街に出てたときの自分に対する敬意、それがロンドンは頭抜けていたそうなんです。これこそ正に成熟した都市のあり方だと思います。

辻 それを世界の人に日本でも感じてもらいたいですね。長谷部さん、本日は貴重なお話をありがとうございました。

二〇一六年二月十八日

スポーツ文化フォーラム



2016年2月18日  
スポーツ文化フォーラム  
Session1  
代官山蔦屋書店T-SITE  
編集 株式会社エミネクロス  
撮影 田口聖也  
製作・発行  
株式会社エミネクロス

## 長谷部 健

渋谷区長

1972年3月東京都渋谷区生まれ  
専修大学商学部卒業  
博報堂退社後、ゴミ問題に関するNPO法人green bird設立。  
2003年渋谷区議に初当選、2015年4月渋谷区長に就任。  
(2016年5月現在)

## スポーツ文化フォーラムとは

スポーツや文化、人生などについて  
より豊かな毎日を送るヒントや気づきを  
多方面でご活躍される文化人をゲストにお迎えし  
スポーツドクターと対談するイベントです。

<http://www.doctor-tsugi.com/>

